

令和7年9月定例会 県土整備委員会（付託）

令和7年9月26日（金）

〔委員会の概要 危機管理部関係〕

出席委員

委員長	木下 賢功
副委員長	嘉見 博之
委員	原 徹臣
委員	平山 尚道
委員	井下 泰憲
委員	長池 文武
委員	坂口 誠治
委員	扶川 敦
委員	川真田琢巳

議会事務局

議事課長	郡 公美
議事課係長	若松 章予
議事課主任	広田 亮祐

説明者職氏名

〔危機管理部〕

部長	佐藤 章仁
副部長	飯田 政義
副部長	川口陽一郎
危機管理監	岩原 傑
次長（危機管理政策課長事務取扱）	大井 文恵
危機管理政策課企画幹（危機管理担当）	若山順一郎
防災対策推進課長	明星 康信
防災対策推進課被災者支援推進室長	唐渡 茂樹
消防保安課長	奥田 理悦
防災人材育成センター所長兼消防学校長	吉田 貞伸

【報告事項】

○ 徳島県津波浸水想定の公表について（資料1）

木下賢功委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。（11時00分）

これより危機管理部関係の審査を行います。

危機管理部関係の付託議案については、さきの委員会において説明を聴取したところで

ありますが、この際、理事者側から報告事項があればこれを受けることにいたします。

佐藤危機管理部長

この際、1 点御報告申し上げます。

資料 1 を御覧ください。徳島県津波浸水想定の公表についてでございます。

去る 9 月 12 日に公表いたしました県独自の津波浸水想定につきましては、想定される浸水面積は県全体で 158.9km²で、前回の平成 24 年想定時から約 2 割減少しております。高速道路盛土や堤防耐震化といった施設整備の進捗により、吉野川北岸をはじめ県北部を中心に浸水面積が大幅に減少いたしました。

一方、県南部におきましては多くがリアス式海岸のため、おおむね大きな変化はございません。

2 ページを御覧ください。津波到達時間・津波影響開始時間でございます。

今回、新たに津波からの避難目標の目安として、堤防より陸側において津波被害が発生するおそれがある時間として 1 m の津波到達時間をお示ししております。海陽町鞆浦漁港口で 8 分と、最も早い津波到達時間となっております。

3 ページを御覧ください。最高津波水位・最大波到達時間でございます。

主な地点のうち、最も高い津波水位は宍喰漁港中央部で 16.3m と想定されております。

県におきましては、引き続き市町村と連携し、津波避難場所の確保や避難路の整備など津波避難困難地域の解消に向け、スピード感を持って取り組んでまいります。

また、いざ発災時、死者ゼロを目指すためには、県民の皆様お一人お一人の迅速な津波避難が何より重要でありますので、県民の皆様になたな津波浸水想定を分かりやすくお伝えするとともに、実践的な訓練等を通じて、迅速な避難行動につなげてまいります。

報告事項は以上です。

御審議のほど、よろしくお願いいたします。

木下賢功委員長

以上で報告は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは、質疑をどうぞ。

平山尚道委員

私からは、我が会派の重清議員が本会議で質問されました津波避難対策についてお伺いいたします。

先ほど部長からの説明がありましたが、本県において甚大な被害が想定される南海トラフ巨大地震の県独自の津波浸水想定が、去る 9 月 12 日に公表されました。

この津波浸水想定については、津波被害が想定される沿岸市町にお住まいの多くの県民の皆様が高い関心を持っておられます。

津波からの迅速な避難行動につなげるためには、まずは県民の皆様の津波避難に対する意識の向上が必要不可欠であります。

そこで教えていただきたいのですが、具体的にどのような形で津波避難啓発を行うのか

教えてください。

明星防災対策推進課長

ただいま平山委員より、津波からの迅速な避難行動につなげるための津波避難啓発について、どのように行うのかとの御質問を頂いております。

津波避難につきましては、県民お一人お一人が地震津波に対する理解を深めていただくとともに、迅速な避難行動を取っていただくことが何より重要であります。

そこで、今回の津波浸水想定を反映した津波避難啓発パンフレットを来月早々にも作成いたしまして、市町村はもとより学校や地域に広く配布してまいりたいと考えております。

また、沿岸市町を巡回する津波避難啓発キャラバンを来月にも実施するとともに、県職員が地域に出向く出前講座や、県立防災センターと連携した啓発パネル展の実施など、県民の皆様にはしっかりと津波避難の重要性が伝わるよう啓発を展開してまいりたいと考えております。

平山尚道委員

迅速な避難行動につなげることが重要であると分かりました。

それでは、ただいまの御答弁にありました、沿岸市町を対象とした津波避難啓発キャラバンの詳細について教えていただきたいと思います。

明星防災対策推進課長

ただいま平山委員より、沿岸市町を対象とした津波避難啓発キャラバンの詳細につきまして御質問を頂いております。

津波避難啓発キャラバンにつきましては、沿岸市町と連携いたしまして、来月以降、各市町のホール等におきまして、働いている住民の皆様の参加しやすい夜間に、順次実施してまいります。

また、講師につきましては、徳島県南海トラフ巨大地震被害想定検討委員会の委員長であります中野晋徳島大学名誉教授に務めていただきまして、地震津波の仕組みや特徴はもとより発災時の避難行動や日頃からの備えにつきまして、住民の皆様に分かりやすい説明をお願いすることとしております。

さらに、こうした講義につきましては動画として取りまとめ、YouTubeの徳島県チャンネルを通じまして、広く県民の皆様にもいつでも視聴いただけるよう公開いたします。

今後とも、県民の皆様の迅速な津波避難につながるよう、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

平山尚道委員

丁寧な説明、ありがとうございました。

夜間に行うというのは、すごく参加しやすい形だと感じておりますので、よろしくお願いいたします。

県においては、今回の津波浸水想定公表を契機に、津波避難啓発キャラバンをはじめとした工夫を凝らした啓発を重層的に行っていただくということで、期待しております。

また、先ほどのYouTubeの徳島チャンネルでございますが、登録者数が1万9,000人ということで、私も見たことがなくて、まだ認知度が低いのかなと思っておりますので、津波の避難啓発によっても登録者数が増えることを期待しております。

今後とも、県民の皆様の防災意識の向上と、いざ発災時の迅速な避難行動につなげていただきますよう要望いたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

扶川敦委員

山林火災からお尋ねします。

板野町で起こった山火事について、事前委員会では今後、初期消火に掛かる時間を早めることが被害拡大を防ぐという意見を申し上げて、あらかじめヘリで取水できる水源確保、そういう体制をとっておくべきだということを申し上げました。

役場に聞いたんですが、8月27日午後5時頃の落雷が火災の原因で、どうもその時は現場に雨は降っていなかったそうです。そして5時40分に町民から板野西部消防組合に連絡があつて、1時間以内に署員らが山に確認に行こうとしたんですが、近くまで行ったけれども火元は確認できなかった。山が深かった。

翌日8月28日の午前7時13分に県消防防災ヘリが出動したんですか、要請されたんですか、この頃に出ていって消火を始めた。自衛隊のヘリは翌29日からだった。

夜間はヘリが飛べないと聞きましたので、全体としてできる限り速やかな対応をとったんだと評価はしておりますが、自衛隊の出動はもっと早められなかったのか、出動をいつ要請して、どのような手続が必要だったのか、このあたりを説明いただけたらと思います。

奥田消防保安課長

ただいま扶川委員より、板野町で起こりました林野火災の対応についての御質問でございます。

板野町で発生した林野火災につきまして、8月28日の朝から県消防防災ヘリで散水活動を行っております。

昼時点では、まだ煙が立ち上がる程度でございますが、消防防災ヘリによる散水で収束を目指しております。

この日、計4フライトで33回散水を行っておるんですが、最後のフライトの夕方になりますと、まだ鎮圧まで至らないということで、あと加えて、現場が急峻で陸上部隊が入れないという特性もございました。

そのことから県として、直ちに散水能力であるとか現場の状況、さらには活動した航空隊員、また板野西部消防組合、板野町の御意見を総合的に判断しまして、躊躇することなく自衛隊に災害派遣を要請いたしました。こちらが19時30分でございます。

要請後、直ちに陸上自衛隊からリエゾンを派遣いただきまして、その日の21時には県災害対策本部室及び板野町にリエゾンが到着しております。

さらに、人員及び機材の手配であるとか、翌日早朝から活動できる体制を迅速にとっていただきまして、翌朝、日の出の5時20分から活動できる体制をとっていただいたところでございます。

扶川敦委員

19時30分ですから、夕方の7時半には要請したんだけど、それから夜になってしまったわけですね。

実際にやって来たのは29日の朝、早朝からスタートしたと。一生懸命やったんだろうと思いますけども、最初に消す、小さいうちに消すというのは、火事を消す当たり前の原則ですけど、少しでも早める方法はなかったのか、少しでも早くやって来てもらう方法がなかったのか、今後、是非研究していただきたいと思います。

要請するのに手続もあったと思うんです。それに時間がどのくらい掛かったか分かりませんが、夜7時半に出てくださいと言って、はい出ますというまで、どれくらい掛かったのですか。

奥田消防保安課長

19時30分に要請いたしまして、即座に対応いただいております、善通寺から駆け付けていただいたのが21時前でございまして、迅速に対応していただいたと思っております。

扶川敦委員

早かったんですね。2時間弱か、1時間半ぐらいですか。

善通寺ですぐ対応できる、判断できる仕組みになっているんですね。それを聞いて少し安心しました。ずるずる時間が掛からなかったということは良いことだと思います。

有事の時は、自衛隊が独自に判断してくれたりすると思いますが、それは感謝したいと思います。

次に、津波浸水想定区域について伺います。

事前に説明を受けましたが、被害想定は、最悪の場合どうなるかということを高性能のコンピューターを使って予測したものだということで、私は正直、もう少し大雑把なものだと思っていました。だからこれは是非、活用すべきだと。

つまり、私自身がシミュレーションの精度について、結構高いんだなと納得いく説明がある程度受けました。事前の説明だけですが。これを生かしていただくことが非常に重要です。

先ほど避難の話がありましたけども、今後、とにかく住民に啓発して逃げてほしいということになっていくのだろうけども、ただそのときに、住民への啓発の内容ですが、誤解でしたけども私が最初に思っていたように、どうせ大雑把なものなんだろうと安易に考えて、こんなもの来るか来ないか分からないのだと、最大といってもそれだって不正確なんだろうと、そんなふうに思われたら効果は半減しますよ。科学的根拠を持つということをちゃんと分かるように啓発していただくことが大事です。

子供にも分かるようにという面も要るでしょうけど、やはりちゃんとそれなりに社会の中で中心になって働いている世代に、これは本当に真剣に考えないと大変な、根拠のあるものなんだなということが分かるような啓発をしていただきたい。

まずは市町村の関係者や、実際に建物を建てて開発したりする業者にも、最初にきちんと理解していただく。1回聞きましょうか。市町村の関係者とか、それからデベロッパーなどに対して、本当にこれは科学的根拠があるものなんだから、それをちゃんと踏まえて

要請しなければいけないし、開発するに当たって言える点を施主に対して説明しなければいけない、そういう視線に立ってもらわなくてはいけないんだけれども、それをどのように進めていくか教えてください。

明星防災対策推進課長

ただいま扶川委員より、今回公表いたしました津波浸水想定を活用と、この周知についての御質問を頂いております。

今回の津波浸水想定につきましては9月12日に公表したところでございますが、引き続き市町村とも連携いたしまして広く県民の皆様に伝わるよう、しっかりと啓発してまいりたいと考えております。

扶川敦委員

広くしてください。それはそうなんですけどね。

この間、北島町が給食センターの改修を再検討するなんてことがニュースで流れました。おっと思いました。それだけこのシミュレーションというのは精度が高いものと評価したからこそ、計画を見直そうということになってきたわけでしょう。

東部、私のエリアでは、特にエリアが少なくなった。少なくなったことによって見直せば、無駄な投資をしなくていいという効果も出てくるんです。

それだけ行政関係者もきちんと深く市町村の勉強をしていただいて、本当にどこまで水が来るんだろう、科学的に見て、ここは大丈夫になったんだなと、これは絶対とは言えないかも分かりませんが、ほぼそう考えて、まず逃げて命を守るけども、財産を守るためであれば、ここまで全部移築するとか大きな投資をする必要はないという政策判断にもつながるわけですよ。そこまで徹底した説明をしていただきたい。

それは、相手が市町村の関係者である、相手が行政である、相手が住民である、相手が子供である、相手に応じた必要な説明をちゃんと尽くすべきだと思いますが、その考え方を教えてください。

明星防災対策推進課長

ただいま扶川委員より、津波の浸水の中でも、特に浸水深に関する周知についての御質問を頂いております。

現在、公表しております津波浸水想定のうち、浸水深につきましては、かなり幅を持った形でお示しさせていただいているところでございますが、今後、更に詳細な浸水深を算定いたしまして、算定ができましたら市町村とも連携いたしまして、広く周知を進めていきたいと考えております。

扶川敦委員

住民に対しては、逃げるということが大事ですから、信頼できるんだよ、それだけはつきり分かってきているんだということで、とにかく逃げてくださいということでもいいと思うんですけど、行政に対しては今おっしゃったように、きちんとそれぞれの行政の建物のこの高さまでの対策はとらなくてはならないと、そこまで具体化していかなければいけな

いですよね。

だから、そこまでのデータというのは、まだできていないわけなんですね。今後いつ頃出来上がるんですか。

明星防災対策推進課長

ただいま扶川委員より、更に精緻な浸水深がいつ頃できるのかという御質問を頂いております。

現在、作業を進めているところでございまして、できるだけ早期に算出したいと考えております。

扶川敦委員

早期というのは数箇月単位ですか、何年単位ですか。

明星防災対策推進課長

ただいま、浸水深の更に詳しい公表時期についての御質問を頂いております。

現在、算出を進めておりまして、具体的な時期というのを申し上げるのは難しいのですが、できるだけ早期に算出してまいりたいと考えております。

扶川敦委員

早期整備で何年も掛かっている仕事もありますからね。だから早期というのが何年も掛かるのでは当然駄目なので、少なくともシミュレーションが出たんだから、年単位にならないよう、月単位で出していただきたいと思います。

それを早く提供することで、今実際にやろうとしていることがあれば、それに修正を掛けることができるわけでしょう。

これは県の施設についても同じことだと思います。県庁の各部局とも情報共有して、対策がどう変化するかということをも早く検討するために、浸水深については早急にデータを作っていただきたいと思います。

ちなみに、その際、これまで過去にもずっと議論されましたけど、津波が来たらここまですべて最大浸水します、ここは海拔何mで津波の想定はこのくらいですみたいなものを町なかに表示するという取組をしてきたと思うんですけど、大きな見直しが必要な南部だったら、そのままでいいのかも分かりませんが、東部について、大幅に縮小したところは今後どのようにしていくのですか。

明星防災対策推進課長

ただいま扶川委員より、市街地に表示されております浸水深、海拔表示について、今後どうしていくのかという御質問を頂いております。

先ほども御答弁を申し上げましたが、現在、更に詳細な浸水深を算出しているところでございまして、そちらの算出ができた暁には、市町村でありますとか防災関係機関とも連携いたしまして、検討を進めてまいりたいと考えております。

扶川敦委員

今、設置しているのは、どのくらい箇所があるんですか。分からない。
それからどこが設置しているか、それも分からないですか。教えてください。

明星防災対策推進課長

ただいま扶川委員より、浸水深の海拔表示を、こういった機関で行っているのかという御質問を頂いております。

調査したわけではございませんが、市町村でありますとか道路管理者などが行っていると、私のほうは認識しております。

扶川敦委員

道路管理者だと、市町村道は網の目のように張り巡らされていますけど、県道は幹線がこうですね、国道もそうですけど。そういうところは県も関わるわけですね。だから道路の関係部局とか県の関係部局にも、しっかり住民が見るところに表示をしてもらわなければいけないわけですから、そこは早く情報提供して対応していただきたいと思うんです。状況把握をしてください。

東京だったかな、防災館を見に行っただけです。そうしたらものすごいビルの横に、ビルの外側、見上げるような高さに、高知だったらこのぐらいの高さの津波が来るんですよというのが外から離れて見える。そうすると、そのビルの横に線を引いてある、その風景を見るでしょう。これで来たら、この辺りは全滅だなというようなイメージが具体的に湧きました。

例えば、そんな展示もあっていいと思うんです。道路で、ちまちまと電柱とか壁とか、そういうところに付けるのも、それはいいですよ。身近でここまで来るんだったら怖いから。

特に県南は、ものすごい大きいのが来るとしたら、大きな建物に線を入れて派手に表示して、それで離れた所から俯瞰すると、ここまで来てしまうんだということがイメージできるような、衝撃力のある展示もあっていいのではないかと思います。こんなのも是非、工夫していただきたい。

室内でのシミュレーションをいろんなところがよくやられていると思いますけど、とにかく啓発はイメージを湧かせることが大事だと思いますので、そんなのも工夫していただきたい。その展示は非常に有効だと思いますけどいかがですか。

木下賢功委員長

小休します。（11時24分）

木下賢功委員長

再開します。（11時25分）

吉田防災人材育成センター所長兼消防学校長

ただいま扶川委員から、津波の高さを建物等に展示してはどうかという御質問を頂きま

した。

私が所属する防災センターにおきましては、センター内に南海トラフ巨大地震の津波浸水高を表示する垂れ幕を展示しております。

これを1階ブース、また2階部分から見ることにによりまして、来館者には南海トラフ巨大地震の津波高を体感していただけるものと考えております。

扶川敦委員

外壁にも付けてください。前を通る人、例えばあそこだったら、フジグランへ往復する人が買物に来るたびに、ここまで来るんだということを毎日、それを見ながら通るわけです。それは良い啓発になると思うんです。是非工夫していただきたいと要望しておきます。

付け足しで質疑させていただきますので、申し訳ない。

個別避難計画をずっと前から議論していますけど、今、策定状況を把握されていますか。

木下賢功委員長

小休します。（11時26分）

木下賢功委員長

再開します。（11時26分）

扶川敦委員

どうにか時間を有効に使おうと思ったんですけど、ここで聞けるところがあれば聞くんですが。

それぞれの部局で今、個別避難計画というのがあります。この前だったら、河川があって船、ヨットが浮いています。これの対策をとらなければいけません。住宅は、住宅が倒れる。耐震化を図らないといけません。

それぞれの部局で網羅的にいろんな地震対策をとらなければいけないのですが、それを統括して冊子にしたり、全体を把握するのはこの部局ではないんですか。そうですね。

それはこの部局として、同時に先ほど津波の高さを知らせて動かしていくんだということを言われましたけど、部局同士の横の調整をして、それでほかの部局に伝えなければいけないことというのも課題が出てきたら伝えていくんでしょう。危機管理の会議というのをやっているわけでしょう。

今現在、徳島県で、この部局で、危機管理の会議で議論していることで最大のテーマになっている、これは一番緊急性があると思って取り組んでいるテーマが何かあったら教えてください。

明星防災対策推進課長

ただいま扶川委員より、緊急性の高い対策は何かとの御質問を頂いております。

防災対策推進課といたしましては、緊急性の高いものがたくさんございますので、例示を挙げるのは少し難しいと考えておりますが、できていないことにつきましては、全て全

体展開で進めていきたいと考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

扶川敦委員

危機管理の会議をやっているんだから、そこでできていないことの中でも優先順位を付けてやらないと。だから、緊急性から一番大事なことだということの中に、前から申し上げているように個別避難計画を作らないと命を助けられないではないですかと。命を助けるということが最優先なんだから、それを物差しにして施策の優先順位を危機管理の会議で諮っていただきたいと思います。

災害弱者が取り残されて命を落とすということがあってはならない、一人も取り残さないと、これが一番大事なポイントで、そのためにそれぞれの施策をまず点検していく。だから先ほどの浸水深の問題だって、まず命を助けるから、逃げる、これが一番大事な施策です。それを理解していただくのが大事。

その次に大事なのは、無駄な対策をしないという優先順位を付けていくことです。そうではないですか。だから危機管理の会議を中心に担うこちらの部局として、そういう姿勢で取り組んでいただきたいと、そのことだけ御答弁いただいて、終わります。

明星防災対策推進課長

ただいま扶川委員より、防災対策については、しっかりと優先順位を付けて進めるべきとの御質問を頂いております。

正に委員おっしゃっていただいたように、優先順位を付けてしっかりと大事なものから進めていくべきと考えておりますので、今後そのような形で進めていきたいと考えております。

長池文武委員

私も、南海トラフ巨大地震ということで浸水想定が公表されまして、お聞きしたら浸水想定とかこういった詳細なデータを基に、この後、被害想定といいますか、今年度内にそういうのを発表されるということだったんでしょうか。

疑問に思うというか、もう少し詳しく説明いただきたいと思いますのは、今回、県の発表は平成24年10月以来ということで、それなりに年月がたっていると。今年の3月、国のほうも出したと。この春に出た時に、徳島県の場合はどうも何か被害想定が増えたような記憶がありまして、今まで十数年、みんなで一生懸命ゼロ作戦ということでやってきたのに増えたというのは非常に納得いなくて、疑問に思ったのを記憶しています。

その時に危機管理部に問い合わせたら、前回のは面積計算が大雑把で、今回は精密にしたら面積が増えましたということで、ほかにもいろいろな要因はあるんでしょうけど、国の被害想定が増えた。何か納得いかないけど、こういうことかぐらいで。

今回見たら面積が減っているのです。そういった増えたり減ったり、国だったり県だったりどんな感じでこうなっているのかなと疑問に思ったんですが、この際、国の被害想定と県の被害想定はどういうふうに県民が捉えたらいいのか、もう少し分かりやすく御説明いただけたらと思います。

明星防災対策推進課長

ただいま長池委員より、本年3月に国が公表いたしました被害想定と、今現在作業を進めております県独自の被害想定の違いについて御質問を頂いております。

本年3月31日に公表されました国の被害想定につきましては、広範囲にわたる広域災害を見据えまして、主として広域的な防災対策を検討するための、飽くまでマクロの被害を想定したものとなっております。

一方、現在見直しを進めている県の被害想定につきましては、先ほど御報告いたしました津波浸水想定につきましては、本県で収集いたしました標高のデータや最新の地形データなどを反映したシミュレーションに基づく、より詳細な津波浸水想定となっております。

また、今現在算出を進めております人的、物的被害を含む全体の被害想定につきましても、本県における地域ごとの人口や年齢階層のほか、住宅耐震化率や津波避難場所の整備状況等といった最新の各種データを反映した被害想定となっております。今後、本県や市町村におけます防災対策の再検証の基礎となるものとなっております。

長池文武委員

先ほど扶川委員もおっしゃったように、県が出すのは、国が出すデータよりも細かく、かなり詳細な、さすが自分の県ですから、そういった意味では詳しく、さらには今後の市町村における災害対策の基本となってくるんだろうと思います。

こういったデータが多分共有されるんでしょうね。このデータを作るのに大分お金が掛かっていると思うんです。あえてここで幾ら掛かったかは聞きませんが、是非有効活用していただきたいと思うのと、これでもこの資料1の青の所が減ったとはいえ、この地図でいうと徳島県は緑色で、ハードによって全部を防ぐといっても無理と思うんです。

たまたま高速道路とかができて、吉野川の北岸が盛土によって防潮堤になると書いてありますけれども、そういう効果で減っているのでしょうか、沿岸部全部を高速道路にというわけにはいきませんし、何となくハード整備には限界があるのが一般的な感覚で分かりますし、ソフトといいますか、先ほどから議論があります津波の避難であったり、津波避難啓発キャラバンをされるそうですが良いことだと思います。

個別避難計画ですか、キーワードが出てきましたけど、そういったソフト面を、とにかく命を助ける、扶川委員がおっしゃったようなことを第一優先にしてすべきだと思うんです。

災害対策は非常に多岐にわたっていて、皆さんのところが司令塔であって、実際に現場というか作業するのは、先ほど保健福祉部とおっしゃっていたけど、県土整備部であったり教育委員会であったり、いろんな部局がそれぞれの対策をするということで、どこが一番かは付けにくい部分はあるんですが、私が提案したいのは、久しぶりに被害想定が出るんです。久しぶりに新しく変わります。

明らかにハード整備では限界があると、もう大体分かっているのですが、どうしても徳島県は、案外ここ数年間、局所的にあったのかも分かりませんが、能登半島だったり九州だったり、最近多いのは豪雨災害ですよ、ああいう余り大きな、血相を変えるような場面に出くわしてない中で、私も含めて随分と、地震であったり災害に対する構えが少し落ちてきているのではないかなという気がしております。

新聞報道やいろいろなマスコミ報道で、他県が大変になっているのを見ながら、こういうのを備えておかなければとか、そういう気持ちにはなるんですけども、東日本の災害の直後のような緊張感であったり危機感であったり不安感というのは、随分と落ち着いてきてしまっているんだろうと思います。

そういう意味で、私は、今回の浸水想定公表は一つの大きなタイミングだと思っています。これをさらっと公表して、さらっと何となく周知するのではなくて、佐藤部長、私はこれを大事だと思っているのです。言葉を選びながらしゃべっていますけれども、これを絶好の、絶好というか非常に大事なタイミングとして、どんどん啓発なり何なりをしていってほしいということで、そういうことに対する意気込みと、もう一つは、先ほど扶川委員がおっしゃった優先順位の中で、どれが1番とか2番とかではないのですが、これを機に今までの対策の中でもっと進めなければまずいという部分と、2番手、3番手にくるような、いわゆる事業の見直しとか、そういうのも、今回の津波想定、さらには被害想定が出る今年度、来年度が重要だと思うんですが、そのあたりは危機管理部でどう捉えているのかをお答えいただけたらと。

川口危機管理部副部長

ただいま長池委員から、今回、津波浸水想定を公表した経緯の中で、いわゆる優先順位といったものも含めて、しっかりと啓発、そうしたものを進めていくべきではないか、そうした決意というところの御質問といいますか、御提言を頂きました。

県といたしましても、今、長池委員がおっしゃった内容は非常に重要なことだと思っております。先ほど明星課長から話もありましたけど、できていないこと、できていること、いろいろ数多くありますけれども、そうした中でしっかりと優先順位を、不断の見直しを掛けながら、しっかりと進めていきたいと考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

長池文武委員

各部局の災害対策は、また各部局の中で優先順位を決めるんでしょうけど、今まで東日本が発災した後、特に今日は県土整備委員会なので、県土整備部も災害対策が基本の柱になって、それに関係する事業を主にやってきたように思います。

今までそういうのを意識せずにやってきたことも、これは災害対策になるのでみたいな話で予算計上してきたりとか、そんなのがあったと思うんですが、そんな中でもしっかりと、もう一度ブラッシュアップといいますか、今回を機に事業の選択といいますか、そういうのをやっていただきたい。

月曜日には県土整備部が入りますので、そういった話をしようかなと思っておりますが、それを統括するのが皆さんでございまして、全ての部局に対して、今回想定が新しくなるのは大きな時機と捉えてください。

世の中には、結構いろんな数が出るではないですか。別に被害想定の数値だけではなくて、いろんなメディアでは数字があふれていまして、そのうちのたった一つになってしまうのです。特にこういう数字というのは割と難しかったですけど、県民の命を守る意味では、私はすごく重要な時機というかタイミングだと思っていまして、発信する側もそうい

う意識をしっかりと高めて取り組んでいただきたいと思います。

楽しみにしていますというのはおかしい話なので、こういうのはそういうわくわく感ではないんですが、より一層気を引き締めて、津波想定、被害想定というものに取り組んでいただけたらと最後に要望を申し上げまして、終わりたいと思います。

井下泰憲委員

1点だけ確認させてください。確認というか教えてほしいのです。

先日、KDDI株式会社さんと協定をまかれたと思うんですけど、KDDI株式会社さんは、今後、全国に1,000か所ぐらい、いろんな拠点を作るということなんです。

これについて、もし分かれば教えてほしいんですけど、県内で大体どこに配備するとかを想定していれば教えてくださいということと、あと今回、南海トラフ巨大地震の話が出ているんですが、例えば、数年前にうちの地元でもあった豪雨とか豪雪とかの災害にも、ドローンとかスターリンクを活用できるのか教えていただけたらと思います。分かる範囲で構いません。

明星防災対策推進課長

ただいま井下委員より、先日、県と協定をまきましたKDDI株式会社の取組について御質問を頂いております。

我々がKDDI株式会社から聞いておりますのは、全国で1,000か所というようなお話も聞いておりますが、まずは、徳島県におきましてドローンを活用した実証実験を行いたいというお話を頂いております。KDDI株式会社さんからは、年度内のできるだけ早い時期という御趣旨のお話も頂いておりますので、県といたしましても、しっかりと協力して実証実験の成功に結び付けていきたいと考えております。

井下泰憲委員

分かりました。また、分かればで構いませので教えてもらえたらと思います。

スターリンクの活用も、例えばどういう方が、一般の方が果たして使えるかどうかでもまた変わってきますし、現段階で分かる範囲を、今、KDDI株式会社さんとのやり取りの中でしか分からないと思うので、分かり次第いろいろとやっていただきたいと思います。

早急に装備していただけたら、こんな心強いことはありませんのでお願いします。

木下功賢委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

これより採決に入ります。

お諮りいたします。

危機管理部関係の付託議案は、これを原案のとおり可決すべきものと決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって、危機管理部関係の付託議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【議案の審査結果】

原案のとおり可決すべきもの（簡易採決）

議案第1号、議案第4号、議案第5号

以上で危機管理部関係の審査を終わります。

これをもって、本日の県土整備委員会を閉会いたします。（11時46分）